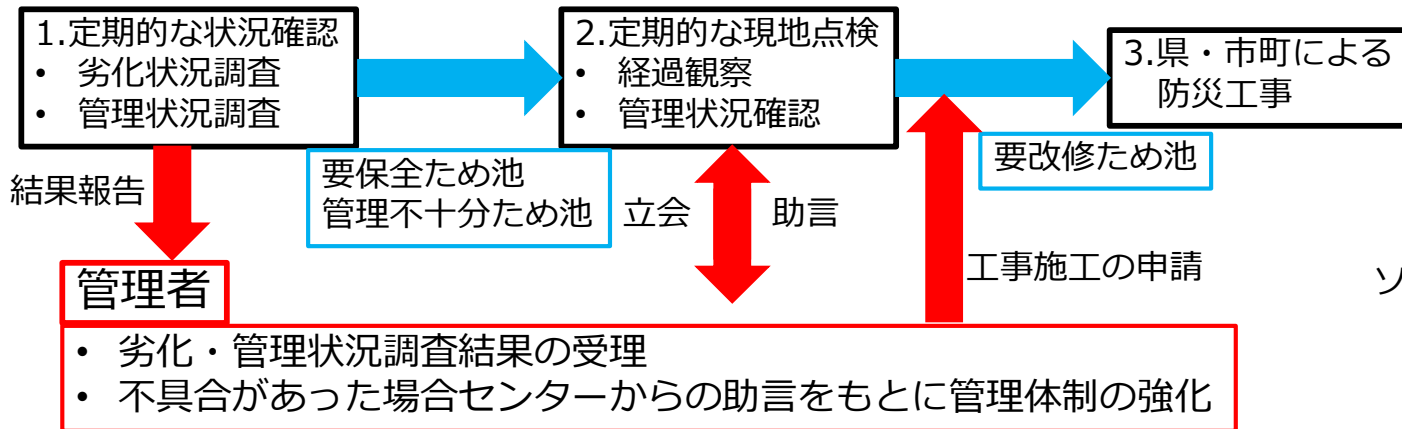


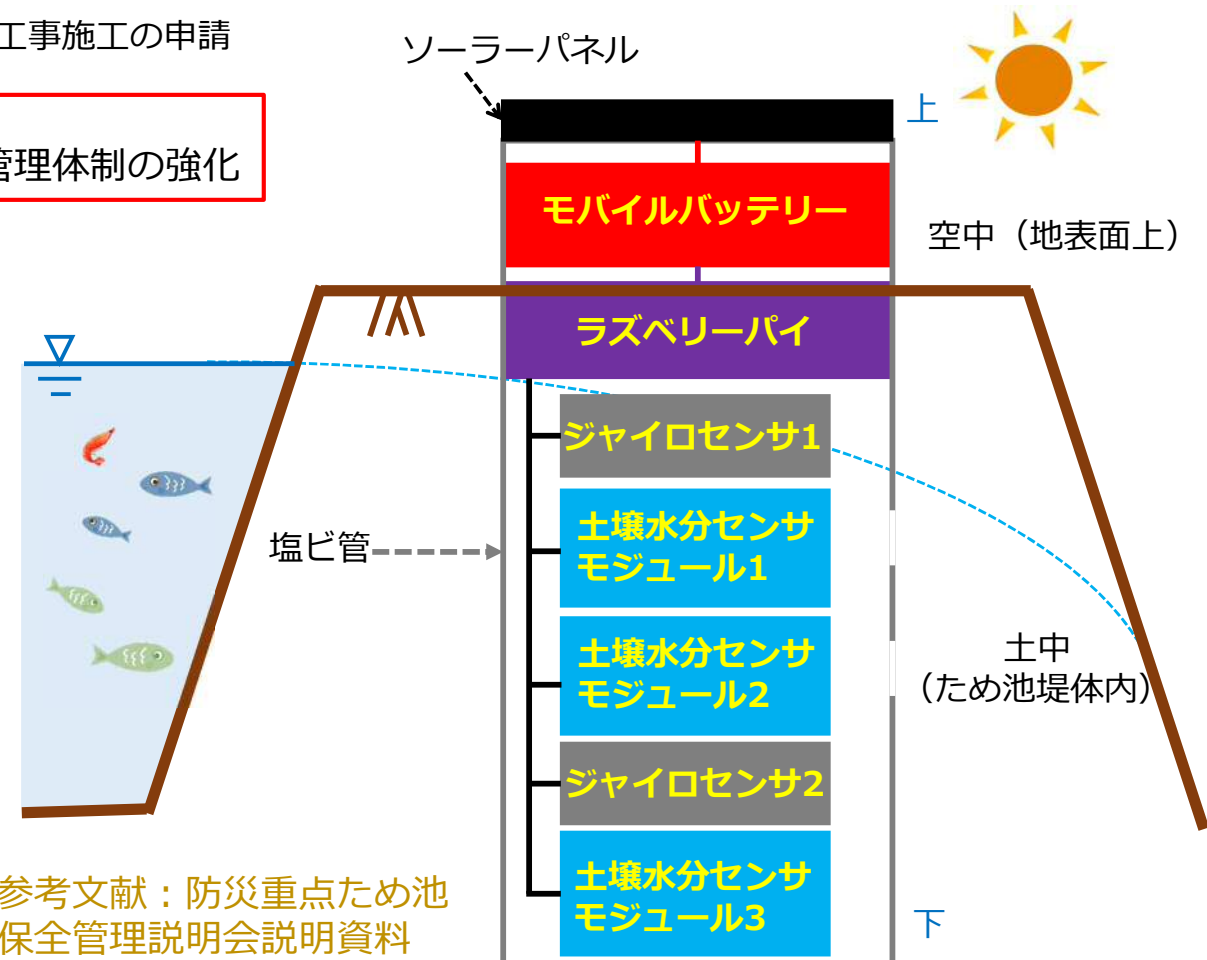
ため池の保全及び有効活用に関する提案

学校名；香川高等専門学校 建設環境工学科
 チーム名；烈風
 メンバー；〇3年土田 虎ノ助 3年森田 優也
 4年池田 滉祐 4年香川 愛
 4年中平 亜都夢 4年堀 遥香

ため池の調査から改修の流れ



観測器設計案



現状

- ・ 1.は管理者による調査である。
- ・ 専門家による調査は2.のみである。
- ・ 専門家による調査は3~4年に一度である。

提案内容

- ・ 各ため池に観測機器を設置することにより、1.をより詳細に調査及びため池の監督をすることができる。
- ・ 観測機器設置により、2.の専門家による現地点検に役立てることができる。
- ・ 漏水が発生したとき、迅速な対応が可能となる。
- ・ 水位観測やいくつかのセンサーによって、安価に管理する手法は、浄化槽点検やインフラ設備管理に応用できる。
- ・ 池の下流側住民への避難情報として提供でき、地域防災に役立てられる。
- ・ 開発センサーを小型化できれば現地調査時の孔を利用して設置も可能。

参考文献：防災重点ため池
 保全管理説明会説明資料